農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

南あわじ市長 守本 憲弘

市町村名 (市町村コード)	南あわじ市 (28224)	
地域名 (地域内農業集落名)	志知佐礼尾 (志知佐礼尾)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年4月1日 (第1回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地域に於いては、稲作と露地野菜を基本とし、露地野菜としては玉葱、レタス、を中心に作付けを行っています。
2、3年前から地域内における農地面積の約3割近くが休耕田となっており、農業従事者の高齢化に伴い休耕田化に歯止めが効かない状況となってきております。
10年後には地域の担い手が8割り近く減少する可能性があり、地域にとって深刻な問題となっていることから、地域全体で取り組まなければなりません。
農地利用のあり方や農道や水路、畔などの整備、高齢者による休耕田の雑草管理、地域全体で放棄田発生の抑制に取り組んでいきたい。

農業者:34人(うち、50歳未満4人) 他地区から入作0人

(2) 地域における農業の将来の在り方

スマート農業への取り組みにより、労働力の軽減を図ると共に土地の貸し借りなど地域全体で検討したい。
SNSを使った新しい事業展開など、大型組織とは違った少人数でも出来る特徴ある地域づくりを考えていきたい。
当地域には農業大学も有り、連携を図りながら生産方法や販売方法など若い世代が担える活力ある地域に変えていきたい。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	16.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	9.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

区域内の農地とする。(区域は添付の図面のとおり)

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
地区内の農地の貸し借りをルール化し、農家の合意の下で進めていく
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構に農地を預けることに不安を感じている所有者が多くいるため、他地域での今後の動向を見たい。
(3)基盤整備事業への取組方針
地域内はほ場整備がされていないため、ほ場整備場を実施したいが複数集落をまとめる必要があるため、現時点では話が進んでいない。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
当地域では兼業農家が多くいるため、円滑な経営継承が出来るよう地域一体となって取り組む。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
作物の収穫など、各農家で支援を任せる。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①近年、頻繁にイノシシが出没するため、地域に於いて対策を検討する。
 ③スマート農業を取り組みたいと思っているので農地整備なども検討していきたい。放棄田がないようスマート機器なども活用しながら地域の有志で保全・管理を行う。